

【書籍紹介】

『安心して放射線検査を受けていただくために—医療被ばく相談の実践と普及—』



小松裕司(短7回生)

医療被ばく相談に興味を持ったきっかけは、日々の業務のなかで患者さんから『被ばくは大丈夫なの？』と質問を受けたことでした。その度にどう答えたらよいかわからず、戸惑いを感じていました。診療放射線技師として被ばくについての知識はあっても、患者さんの不安を軽減する対応ができず、もどかしさを感じていました。こうした経験が積み重なるうちに、単なる知識の提供だけではなく患者さんの不安に寄り添う形で対応することの重要性に気付き、医療被ばく相談について本格的に学び始めました。

学びを深めるうちに、多くの方々との出会いや講演の機会をいただきました。講演では、医療被ばくに対する不安や誤解がいかに根深いものであるかを実感するとともに、多くの診療放射線技師が私と同じ悩みを抱えている現状を感じ、相談対応の必要性を改めて感じました。放射線に不安を感じている方々には、

単に数値や理論を説明するのではなく、不安の根本にある心理的要因にアプローチすることが重要であるということ、さらに多くの医療従事者から『自分も患者さんから被ばくについて聞かれるが、上手く対応できない』という声を聞き、同じ悩みを抱える仲間が多いことを知りました。その経験から、被ばく相談のスキルを共有し、広めることの意義を強く感じるようになりました。

そうした経験を踏まえ、診療放射線技師である妻(短16回生)と共に、書籍の執筆に取り組むことにしました。妻の協力がなければ、この書籍を完成させることはできなかったと思います。心から感謝しています。

被ばく相談にはさまざまなアプローチがあり、どの方法にも理にかなった部分がありますが、説得型の対応が多い現状には違和感を覚えています。不安という感情は単なる知識の提供だけでは解消できません。むしろ、知識を押し付けるとかえって不安が増すこともあります。そこで被ばく相談においては、共感的な傾聴や心理的サポートが不可欠であると考えています。医療従事者として、専門的な知識や技術を磨くことはもちろん、患者さんが安心して検査や治療を受けられる環境を整えることも診療放射線技師の責務です。本書籍が皆さんの診療の一助となれば幸いです。



以上

* 通巻 255 号 2025 年 4 月 10 日発行(2025-No.2)より